

さがみはら 市史編さんだより

創刊号 2001.6.30

「市史編さん室」がスタート

4月1日付で、総務部総務課の課内室として「市史編さん室」が発足しました。事務室は、相模原市高根3丁目にある市立博物館の小会議室を改装して設けられました。

相模原市が市史編さん事業に着手するのは、現在の市史が完結してから、29年ぶりのこととなります。現『相模原市史』は、市制施行10周年を記念して昭和39年11月に第1巻が刊行され、その後、昭和47年3月までに全7巻が刊行されました。今回は、その市史の「続編」として、市制施行50周年を迎える平成16年11月に、第1巻の刊行を目指しています。

現市史は、昭和20年8月15日の終戦で記述が終わっているため、戦後50年あまりの歴史を「現代編」としてまとめるほか、考古編・民俗編・自然編などの刊行も計画しています。

今年度は「市史編さん審議会」を設置し、市史の全体構成や編さん方針を決め、さっそく第1巻刊行のための資料調査に取りかかる予定です。

市民に読まれる市史づくりをめざし、スタッフ一同張り切っておりますのでよろしくお願いいたします。

『相模原市史』をご存じですか

『相模原市史』は、現在、全国各地で編さんが行われている市町村史の先駆けとして、昭和35年に編さん準備が開始され、昭和47年に第7巻の刊行を最後に編さん事業は終了しました。その後、収集された古文書類は図書館に移管され、平成7年11月に博物館が開館するまで、「古文書室」で資料の研究や閲覧業務が継続されてきました。

昭和30年代、全国ですでにいくつかの市史が刊行されていましたが、当時は郷土史を通史的に1巻か2巻程度にまとめたものが中心でした。こうした中で、「資料編」を持ち、その資料をもとに「通史編」をまとめ、しかも全7巻という量で構成された『相模原市史』は全国的に注目を集めました。その後、資料編と通史編から成る全7巻、8巻という市町村史が定型となって行き、近年では、歴史のみならず、民俗や自

然の分野も市史に加わり、10巻、20巻という構成のものもめずらくしはなくなりました。

ここでは、すでに刊行されている『相模原市史』全7巻の構成をご紹介します。

＝【第1巻】「通史編」 1

- ・市制施行10周年の相模原市
- ・相模原の自然環境と研究史（地理・地質・地下水を中心に記述）
- ・原始時代～中世の相模原（無土器（旧石器）時代にはじまり、古墳時代、律令（奈良）時代、平安時代、鎌倉時代、南北朝・室町時代、後北条氏時代の1590年までを記述）

＝【第2巻】「通史編」 2

- ・近世の相模原（1590年から1868年に至る江戸時代の領主、検地、新田開発、農村経済、農村文化、用水、畑作、養蚕などについて記述）

＝【第3巻】「通史編」 3

- ・近代の相模原（1868年から1912年に至る明治時代の村落制度、地方議会、自由民権運動、地租改正、相模野の開発、教育文化、行政制度、近代産業、交通運輸、治水水利などについて記述）

＝【第4巻】「通史編」 4

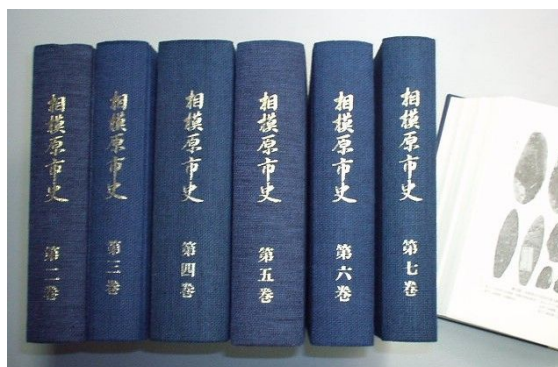
- ・現代の相模原（1912年から1945年の大正時代から終戦までの昭和時代の、生産と経済、開発計画、水利問題、交通運輸、教育文化、農村問題、不況対策、町村合併、軍都計画、地域の生活などについて記述）

＝【第5巻】「資料編」 1

- ・中世資料編（長松寺、安藤家、田所家、中里家、無量光寺、関山家、江成家の各中世文書を収録）
- ・近世資料編（近世村別に各家の近世文書を収録し、資料の編年目録を付している）
 - *近世（江戸時代）の相模原市域には、上相原・橋本・小山・上矢部新田・上矢部・淵野辺・鶴野森・上鶴間・大島・上九沢・下九沢・田名・上溝・当麻・下溝・磯部・新戸の17か村がありました。

＝【第6巻】「資料編」 2

- ・近代資料編（近代村別に村役場・各家の近代文書を収録し、資料の編年目録を付している）
 - *明治22年の町村合併以後、相模原市域の村々は、相原・大野・大沢・田名



・溝・麻溝・新磯の7か村となりました。

＝ 【第7巻】 「別編」

- ・年表（原始時代から昭和20年まで約2400項目を掲載）
- ・総目次（第1巻から第6巻までの本文目次・写真・図版・表など）
- ・索引（第1巻から第4巻までの人名・地名・事項等約6700語を掲載）
- ・主要資料目録（市史重要資料を12の項目別に年代順に分類）
- ・戦後の統計・年表（昭和20年から昭和46年までの市勢の推移を示した統計 107表、年表約 500項目を掲載）

市史編さん室のスタッフです。どうぞよろしく!

室長 安立武晴（あだち・たけはる）

博物館副館長と併任で、室長を命ぜられました。室長を含めても5名という小さな所帯ですが、室員が一丸となって新しい市史づくりに励みたいと思います。なお、市史編さん事務室は、博物館事務室の隣室にあります。

主幹 田所哲男（たどころ・てつお）

保健福祉部の子育て支援課から異動してまいりました。市民の皆さまに親しまれる市史の刊行と史料の保存・活用のため、頑張りたいと思います

副主幹 井上明夫（いのうえ・あきお）

文化財保護室から異動してきました。県内の市史・町史編さん担当者にお聞きすると、どこも資料の保管場所確保には頭を痛めているようです。私も、近々集められた資料に埋もれてしまうのでしょうか。

主査・学芸員 浜田弘明（はまだ・ひろあき）

博物館の人文地理担当学芸員からの異動となりました。市史続編は、現代史に重きが置かれる予定ですので、専門分野の地理的視点を生かした市史づくりに励みたいと思います。

主任 増島亮子（ますじま・りょうこ）

グリーンホール相模大野から異動してきました増島です。市史続編の編さんをするという話を聞いた時は、「？」という感じでした。無の状態からの出発で毎日が勉強ですが、親しみやすい市史続編の刊行を目指してがんばります。

＝ 編さん室の動き (4～5月) ＝

月	日	内 容
4	1	「市史編さん室」発足
	2	人事発令式
	12	電話交換器の工事
	15	「市史編さん審議会」委員公募開始（「広報さがみはら」掲載）
	17	企画政策課との打ち合わせ
	20	コピー機の設置
	25	「市史編さん審議会」に関する主管会議
	27	市史編さん室開設案内状の送付
5	8	博物館消防訓練に参加
	15	「市史編さん審議会」委員公募締切り（応募6名）
	22	津久井町町史編さん室へ視察調査
	23	大和市市史編さん担当へ視察調査
	24	県歴史資料取扱機関連絡協議会総会（会場：県立公文書館）に出席
	25	「市史編さん審議会」公募委員選考委員会開催
	28	事務室照明工事・書架等設置工事
	29	座間市立図書館市史編さん係へ視察調査
	31	海老名市市史編さん室へ視察調査

＝ 市史編さん事業を開始するにあたり、広く庁内及び関係者・関係機関に市史についての理解を深めていただくとともに、編さん事業の進捗状況をお知らせするため、今月から「たより」を発行することとしました。当面の間、庁内各課・機関、市内小中学校、関係自治体市史編さん室、市史編さん関係者向けに、隔月で刊行して行く予定です。どうぞ、ご愛読ください。

「さがみはら市史編さんだより」創刊号

発行 平成13年6月30日

編集 相模原市総務部総務課市史編さん室

〒229-0021 神奈川県相模原市高根3-1-15 市立博物館内

TEL 042(750)8025 / FAX 042(750)8061